

インド自動車産業への貢献を目指して

老舗鑄造メーカーが独自の技術を活かしてインド市場に挑む。

株式会社木村鑄造所

海外営業部 課長 溝口 護

女性が活躍「子育てに優しい企業」

株式会社木村鑄造所^{ちゅうぞう}は1927年創業の老舗鑄造メーカーである。当社が得意とする「フルモールド鑄造法」は、発泡スチロールで実際の製品と同等の模型を作り、それを砂に埋め、そのままの状態^{ようとう}で溶湯^{いもの}を流し込み、鑄物を作る鑄造法である。主には、自動車プレス金型用の鑄物などいわゆる「一品もの」に用いられる鑄造法だが、当社は技術開発により、大型産業機械部品などの「量産もの」にも同鑄造法を適用していることが、最大の強みである。2007年には第53回大河内記念生産賞を受賞、売上高200億円、従業員900人を超える企業に成長した。

当社は2点において「異色」の鑄造メーカーである。

1つは、全従業員に占める女性従業員の割合が約20%を占めることだ。いわゆる「3K」業種に分類されることが多い鑄造業において、



発泡スチロール模型(写真上部)を砂に埋めて注湯し、実際の鑄鉄部品(写真下部)を作る

この比率は類を見ないだろう。女性従業員が特に活躍しているのは、フルモールド鑄造法の最大の特徴である「発泡スチロール模型作り」においてである。発泡模型を量産するためには、成形され

た発泡ブロックから部品を削り出し、それらを実製品とほぼ同等の形状に貼り合わせる必要がある。この貼り合わせ作業には、正確さ、繊細さに加えて、迅速性が求められる。また、これらの工程だけではなく、プログラミングや検査工程で活躍する女性従業員も多い。19年11月には、静岡県から「子育てに優しい企業」として表彰されるなど、職場環境も女性従業員の継続勤務に寄与している。



女性従業員が特に活躍する発泡スチロール模型作り

異色のもう1つは、「デジタル技術」である。何を今さら、と思われるだろうが、注湯温度は1400度を超え、一方で温度・湿度が日々変化する日本において、鑄造の世界をデジタル化するのは、そうたやすくはない。まだまだアナログな分析に頼ることも多い。ただ言えるのは、当社が常に時代の先を捕まえようと、積極的にデジタル技術の導入を試みていることだ。スマートファクトリーならぬ「スマートファウンドリー」(次世代鑄造工場)の設立を目標に掲げ、日々格闘を続けている。